

専門	必修	商業英語	0024	学修単位	2							クーパー トッド
専門	必修	経営システム分析論	0025	学修単位	2							村山 雅 子
専門	選択	専門英書講読	0026	学修単位	2							阿蘇 司
専門	必修	経営戦略特論	0027	学修単位	2							宮重 徹 也
専門	選択	地域産業学	0028	学修単位	2							伊藤 尚 阿蘇 司
一般	選択	日本語・日本文学	0057	学修単位	2							近藤 周 吾
一般	選択	地域社会研究	0058	学修単位	2							横田 数 弘
一般	選択	健康科学	0059	学修単位	2							大橋 千 里
一般	選択	産業特論	0060	学修単位	2							長谷川 博
一般	選択	環日本海文化論	0061	学修単位	2							宮崎 衣 澄
専門	必修	技術者倫理・企業倫理	0062	学修単位	2							横田 数 弘, 塚 田 章 松原 義弘
専門	選択	国際関係論	0063	学修単位	2							海老原 毅
専門	選択	オペレーションズ・リサーチ	0064	学修単位	2							阿蘇 司
専門	選択	パラメータ設計	0065	学修単位	2							水谷 淳 之介
専門	選択	生産開発システム	0066	学修単位	2							山本 桂 一郎
専門	選択	港湾実務	0067	学修単位	2							岡本 勝 規
専門	選択	港湾物流	0068	学修単位	2							岡本 勝 規
専門	選択	地球科学概論	0069	学修単位	2							福留 研 一
専門	必修	国際ビジネス学特別研究 I	0070	学修単位	4							村山 雅 子, 塩 見 浩 介 宮重 徹也 萩原 信吾 清 剛 治, 那 須野 育 大
専門	必修	国際ビジネス学特別研究 II	0071	学修単位	4							村山 雅 子, 塩 見 浩 介 宮重 徹也 萩原 信吾 清 剛 治, 那 須野 育 大
専門	必修	数理意思決定論	0072	学修単位	2							萩原 信 吾
専門	必修	商業英語	0073	学修単位	2							クーパー トッド
専門	選択	ビジネス会計論	0074	学修単位	2							塩見 浩 介
専門	選択	応用情報処理論	0075	学修単位	2							萩原 信 吾
専門	選択	環境マーケティング論	0076	学修単位	2							阿蘇 司
専門	選択	経営システム科学論	0077	学修単位	2							村山 雅 子
専門	選択	地域イノベーション論	0078	学修単位	2							清 剛治

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	応用英語
科目基礎情報					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	One Hundred Exercises—Grammar for Advanced Students of English as a Second Language, Vol.2, A. Dart, M. Nishihara				
担当教員	西原 雅博				
到達目標					
<p>1. 文法規則を正確に理解し運用して、自分の言いたい内容を正確な英文で書き表現することができる。</p> <p>2. ピリオド、コンマ、セミコロン等のパンクチュエーションと接続詞を意図的に使用して、自分のアイデアを効果的に書き表現することができる。</p> <p>3. フォーマルな表現、くだけた表現といった言語の社会性について理解することができ、自分の意図する形式を正確に用いることができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	文法規則を正確に理解し運用して、自分の言いたい内容を正確な英文で書き表現することができる。	文法規則を理解してこれを運用して英文を綴ることができる。	文法規則の理解が不十分であり、その結果正確な英文を書くことができない。		
評価項目2	ピリオド、コンマ、セミコロン等のパンクチュエーションと接続詞を意図的に使用して、自分のアイデアを効果的に書き表現することができる。	ピリオド、コンマ、セミコロンと接続詞を自覚的に使って正確に意図を表現しようと努力することができる。	ピリオド、コンマ、セミコロンや接続詞の使用に関して無自覚である。		
評価項目3	フォーマルな表現、くだけた表現といった言語の社会性について理解することができ、自分の意図する形式を正確に用いることができる。	フォーマルな表現、くだけた表現があることを知って適切に使い分けようとすることができる。	言語の使用に社会性があることを理解することも、それを適切に使用しようとすることもできない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>学習目標（授業のねらい） 英語でアブストラクトや論文を作成する表現力、説明力の基礎を身につけるために、慣用的な表現だけでなく、文法規則を正確に使うことで応用的に英文を創る力が必要となる。そのために授業で重点的に扱うのは、動詞の時制の理解と区別、冠詞と前置詞、接続詞といった「機能語」、コンマとセミコロンといったパンクチュエーション、フォーマルな表現・くだけた表現といった規則の運用力に関する内容の上に立って、助動詞、仮定文、不定詞、動名詞といった応用力のある規則を取り上げる。</p>				
授業の進め方・方法	教員単独による講義及び学生の発表・演習を行なう。				
注意点	毎回、解説の理解とそれを使った練習問題からなる8ページ前後の予習が与えられる（別途シラバス参照）。所要時間は約2～3時間。準備をして授業に参加すること。テキストを忘れた場合はその授業は欠課とみなす。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	法助動詞 should / ought to、及び、 must（推測）	法助動詞 should / ought to、及び、 must（推測）の意味の区別ができ、対話の中で意味に応じた正しい形式を作ることができる。	
	2週	法助動詞 must（必要・推薦・禁止）、don't have to と mustn't、may（憶測・可能性・申し出）	法助動詞 must（必要・推薦・禁止）、don't have to と mustn'tの意味の区別ができ、対話の中で意味に応じた正しい形式を作ることができる。		
	3週	have to と may、should、must の組み合わせ表現、may、can、の丁寧な申し出、can と could、be able to に関して、互いの意味の区別ができ、対話の中で意味に応じた正しい形式を作ることができる。	have to と may、should、must の組み合わせ表現、may、can、の丁寧な申し出、can と could、be able to に関して、互いの意味の区別ができ、対話の中で意味に応じた正しい形式を作ることができる。		
	4週	could have、法助動詞のまとめ（1）、need と dare	それまでの法助動詞を対象として、文脈に応じた正しい法助動詞の形式を作ることができる。		
	5週	had better (best)、would like、would rather、would sooner、be supposed to、have got、have got to	had better (best)、would like、would rather、would sooner、be supposed to、have got、have got to に関して、互いの意味の違いを理解でき、対話の意味に応じた形式をつくることができる。		
	6週	法助動詞のまとめ（2）、実現可能な仮定文、条件節の中の should	それまでの法助動詞を対象として、文脈に応じた正しい法助動詞の形式を作ることができる。実現可能な条件文の動詞の形式をつくることができる。		
	7週	現在の事実即した条件文、when の意味の if、現在の事実と反する条件を仮定する、過去の事実と反する条件を仮定する	when と交換可能な if の用法を判断することができる。また、実現可能な仮定文に対して、現在の事実と反する条件を仮定した文、及び、過去の事実と反する条件を仮定した文との判断をすることができ、それぞれに応じた動詞句をつくることができる。		
	8週	過去の事実・習慣（when の意味の if、used to、would）、条件文のまとめ、意見節 as if、as though	過去の事実・習慣（when の意味の if、used to、would）の意味を理解し、文脈の中で適切な動詞句を作ることができる。意見節 as if、as though に関して、文脈に対応した動詞句を作ることができる。		
	2ndQ	9週	不定詞（単純不定詞と完了不定詞、主語としての不定詞、先行の "it"）	単純不定詞と完了不定詞の判断ができる。主語としての不定詞を使った英文をつくることができ、これを先行の "it" を使って書く事ができる。	
	10週	主語としての動名詞（句）、動詞 go の後に続く動名詞、その他の動詞に続く動名詞表現	動名詞の用法のうち、主語として、go などの動詞の後ろにくる形式を理解し、文脈に応じた形式をつくることことができる。		
	11週	動詞の目的語としての動名詞、動名詞・不定詞のいずれも目的語とする動詞	動名詞のみを後続させる動詞との用法を文脈の中で使うことができる。		

	12週	前置詞の目的語としての動名詞（①動詞+前置詞+動名詞、②形容詞+前置詞+動名詞）	前置詞に後続する用法としての動名詞を文脈に応じて正しい形式に変えて使うことができる。
	13週	前置詞の目的語としての動名詞（③名詞+前置詞+動名詞）、知覚動詞に続く動名詞他	知覚動詞に後続する動名詞の用法を文脈に応じて正しく使うことができる。
	14週	完了動名詞	単純動名詞と完了動名詞の判断ができ、文脈の中で正しい形式をつくることができる。
	15週	期末試験	第9週～14週までの内容の理解度を測るために、期末試験を行なう。
	16週	答案返却、解説、授業アンケート	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	情報処理学		
科目基礎情報							
科目番号	0008		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	特に指定しない。授業中に資料または教員作成のプリントを配布する。						
担当教員	秋口 俊輔						
到達目標							
1. Excelを用いてデータ処理を行い、その結果に関する分析を行うことができる。 2. VBAを用いてマクロを作成することができる。 3. 感性的な情報処理に関して、その特徴・方法論などについて説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	Excelを用いてデータ処理を行い、その結果に関するより専門的な分析を行うことができる。		Excelを用いてデータ処理を行い、その結果に関する分析を行うことができる。		Excelを用いてデータ処理を行い、その結果に関する分析を行うことができない。		
評価項目2	VBAを用いて複雑なマクロを作成することができる。		VBAを用いてマクロを作成することができる。		VBAを用いてマクロを作成することができない。		
評価項目3	感性的な情報処理に関して、その特徴・方法論などについて十分に説明できる。		感性的な情報処理に関して、その特徴・方法論などについておおよそ説明できる。		感性的な情報処理に関して、その特徴・方法論などについて説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	取り扱うべき情報が多様にわたる今日では、様々な情報を適切に処理する技能が必要となる。本講義では、様々なデータ計測や制御に必要な技能の習得を目標とし、表計算ソフトウェアを用いたグラフ表示や統計解析などによりデータ処理を行う。また、感性的な情報処理を行うための前段階として、コンピュータ上で曖昧な情報を取り扱うための一手法についても学習する。						
授業の進め方・方法	・講義を主とし、適時演習問題を織り交ぜて実施する。						
注意点	・理解を深めるため、適宜演習を行う。						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	イントロダクション		本講義科目における学習内容、方法を説明できる。		
		2週	コンピュータを用いた情報処理 (1)		Excelを用いた簡単なデータ処理ができる。		
		3週	コンピュータを用いた情報処理 (1)		Excelを用いた簡単なデータ処理の結果を分析することができる。		
		4週	コンピュータを用いた情報処理 (2)		プログラミング言語を用いて簡単な情報処理プログラムを作成することができる。		
		5週	コンピュータを用いた情報処理 (2)		作成した情報処理プログラムで出力された結果をExcelを用いて解析することができる。		
		6週	コンピュータを用いた情報処理 (3)		マクロとは何かについて説明できる。		
		7週	コンピュータを用いた情報処理 (3)		VBAを用いたマクロ作成演習にて課題を達成できる。		
	2ndQ	8週	コンピュータを用いた情報処理 (3)		VBAを用いたマクロ作成演習にて課題を達成できる。		
		9週	コンピュータを用いた情報処理 (3)		VBAを用いたマクロ作成演習にて課題を達成できる。		
		10週	演習		プログラミング言語・excelを用いたデータ処理、処理結果の分析に関する演習課題を達成できる。		
		11週	感性的な情報処理手法 (1)		人間の持つ曖昧さをコンピュータ上で取り扱う上で注意すべき事項について説明できる。		
		12週	感性的な情報処理手法 (2)		コンピュータ上で曖昧さを含んだ情報を取り扱う手法について説明できる。		
		13週	感性的な情報処理手法 (3)		コンピュータを用いた感性的な情報処理について説明できる。		
		14週	演習		感性的な情報処理手法を用いた情報処理、処理結果の分析に関する演習課題を達成できる。		
		15週	期末試験		期末試験		
16週	期末試験の解答		試験返却				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	インターンシップ A (国内)			
科目基礎情報								
科目番号	0012		科目区分	専門 / 選択				
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1				
開設期	前期		週時間数	2				
教科書/教材	専攻科インターンシップ実施要項							
担当教員	由井 四海,長谷川 博							
到達目標								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1								
評価項目2								
評価項目3								
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	学習目標(授業の狙い) 技術者として国際的視点で事象を捉え続ける能力を身に付け、母国だけでなく地球にやさしい視点で判断し、説明できる能力を養うことを目標とする。そのために2週間以上の日本企業研修を行う。							
授業の進め方・方法	プレゼンテーションとレポートにより評価する。							
注意点								
授業計画								
		週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	インターンシップ先の決定	履修希望学生は、受け入れ先と相談の上、担任の承認を得た後、申請書にて申請し、許可を得る。				
		2週	準備	必ず学生教育研究災害保険（インターンシップコース）に加入すること。				
		3週	準備	指定された書式のインターンシップ申込書、誓約書を担任に提出すること。				
		4週	インターンシップ期間中	学生はインターンシップ業務に従事し、所定の書式に毎日の業務記録を作成する。また、業務指導担当者の所見をいただくこと。				
		5週	インターンシップ終了後	インターンシップ業務終了時には報告書を作成する。そして、担任に提出する。				
			6週					
			7週					
			8週					
		2ndQ	9週					
			10週					
			11週					
			12週					
			13週					
			14週					
			15週					
			16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100	
基礎的能力	0	50	0	0	50	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	国際ビジネス学特別研究 I		
科目基礎情報							
科目番号	0014		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 4			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	4			
教科書/教材							
担当教員	村山 雅子,塩見 浩介,宮重 徹也,萩原 信吾						
到達目標							
1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得で論理的思考力と経営学的分析力を育成し、学会で評価されるレベルの研究ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	学会で評価されるレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができない		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得できる。						
授業の進め方・方法	各研究室において実施						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		1年目における論文作成の流れと注意点に関する説明が理解できる。		
		2週	研究		論文作成ができる。		
		3週	研究		論文作成ができる。		
		4週	研究		論文作成ができる。		
		5週	研究		論文作成ができる。		
		6週	研究		論文作成ができる。		
		7週	研究		論文作成ができる。		
		8週	研究		論文作成ができる。		
	2ndQ	9週	研究		論文作成ができる。		
		10週	研究		論文作成ができる。		
		11週	研究		論文作成ができる。		
		12週	研究		論文作成ができる。		
		13週	研究		論文作成ができる。		
		14週	研究		論文作成ができる。		
		15週	第1回特別研究発表会		研究報告ができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	特別研究発表	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	国際ビジネス学特別研究 I		
科目基礎情報							
科目番号	0015		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 4			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	4			
教科書/教材							
担当教員	村山 雅子,塩見 浩介,宮重 徹也,萩原 信吾						
到達目標							
1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得で論理的思考力と経営学的分析力を育成し、学会で評価されるレベルの研究ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	学会で評価されるレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができない		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得できる。						
授業の進め方・方法	各研究室において実施						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		1年後期における論文作成の流れと注意点に関する説明を理解できる。		
		2週	研究		論文作成ができる。		
		3週	研究		論文作成ができる。		
		4週	研究		論文作成ができる。		
		5週	研究		論文作成ができる。		
		6週	研究		論文作成ができる。		
		7週	研究		論文作成ができる。		
		8週	研究		論文作成ができる。		
	4thQ	9週	研究		論文作成ができる。		
		10週	研究		論文作成ができる。		
		11週	研究		論文作成ができる。		
		12週	研究		論文作成ができる。		
		13週	研究		論文作成ができる。		
		14週	研究		論文作成ができる。		
		15週	第2回特別研究発表会		研究報告ができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	特別研究発表	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	経営学特論Ⅱ		
科目基礎情報							
科目番号	0017		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	塩見 浩介						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	経営管理特論		
科目基礎情報							
科目番号	0018		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	村田和博「経営学」						
担当教員	宮重 徹也						
到達目標							
経営管理論の理論体系が理解でき、実践に適用できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	経営管理論の理論体系が理解でき、実践に適用できる。		経営管理論の理論体系が理解できる。		経営管理論の理論体系が理解できない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義では、経営管理論の理論体系の習得と実践能力の学習を目的とした講義を行う。						
授業の進め方・方法	講義形式にて実施するが、学生による報告も行う。						
注意点							
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	オリエンテーション		本講義の概要を理解できる。		
		2週	古典的管理の概念		古典的管理論の概念について理解できる。		
		3週	古典的管理の事例分析 (1)		古典的管理論の事例について理解できる。		
		4週	古典的管理の事例分析 (2)		古典的管理論の事例について理解できる。		
		5週	モチベーションの概念		モチベーションの概念について理解できる。		
		6週	モチベーションの事例分析 (1)		モチベーションの事例について理解できる。		
		7週	モチベーションの事例分析 (2)		モチベーションの事例について理解できる。		
	2ndQ	8週	インセンティブの概念		インセンティブの概念について理解できる。		
		9週	インセンティブの事例分析 (1)		インセンティブの事例について理解できる。		
		10週	インセンティブの事例分析 (2)		インセンティブの事例について理解できる。		
		11週	リーダーシップの概念		リーダーシップの概念について理解できる。		
		12週	リーダーシップの事例分析 (1)		リーダーシップの事例について理解できる。		
		13週	リーダーシップの事例分析 (2)		リーダーシップの事例について理解できる。		
		14週	企業倫理の概念		企業倫理の概念について理解できる。		
		15週	期末試験				
16週	答案返却、解説、授業アンケート						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	経営戦略特論		
科目基礎情報							
科目番号	0027		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	ジェームズ・コリンズ他『ビジョナリー・カンパニー』日経BP社、山本七平『日本はなぜ敗れるのか』						
担当教員	宮重 徹也						
到達目標							
経営戦略の基礎的理論を理解できる。 経営学書の輪読を通して、その内容を報告できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1		経営戦略の基礎的理論を十分に理解できる。	経営戦略の基礎的理論を一部理解できる。	経営戦略の基礎的理論を理解できない。			
評価項目2		経営学書の内容を十分に報告できる。	経営学書の内容を不十分ながらも報告できる。	経営学書の内容を報告できない。			
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	経営戦略論の基礎的な理論について理解することを目標とした授業を実施する。 また、経営学書の輪読を通して、広く経営学や企業に対する理解を深める。						
授業の進め方・方法	講義形式にて実施するが、学生による報告も行う。						
注意点							
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	オリエンテーション	授業の進め方について理解できる。			
		2週	経営学書の概要紹介・企業の目的	経営学書の概要が理解できる。また、企業の目的が理解できる。			
		3週	経営学書の報告・企業ドメイン (1)	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、企業ドメインの定義と機能について理解できる。			
		4週	経営学書の報告・企業ドメイン (2)	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、企業ドメインの具体的な事例と発展について理解できる。			
		5週	経営学書の報告・成長戦略 (1)	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、組織学習と市場シェアの拡大に基づく成長戦略について理解できる。			
		6週	経営学書の報告・成長戦略 (2)	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、成長戦略のタイプと多角化について理解できる。			
		7週	経営学書の報告・競争戦略 (1)	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、競争戦略や競争優位の概念について理解できる。			
	8週	経営学書の報告・競争戦略 (2)	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、産業組織論に基づく競争戦略について理解できる。				
	4thQ	9週	経営学書の報告・競争戦略 (3)	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、源論・能力論に基づく競争戦略について理解できる。			
		10週	経営学書の報告・経営組織 (1)	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、経営組織の構造について理解できる。			
		11週	経営学書の報告・経営組織 (2)	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、経営組織の発展について理解できる。			
		12週	経営学書の報告・経営管理	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、経営戦略と経営組織の管理について理解できる。			
		13週	経営学書の報告・企業文化	報告者は経営学書の内容を報告できる。また、企業文化について理解できる。			
		14週	経営学書のまとめ・企業倫理	経営学書の内容が理解できる。また、企業倫理について理解できる。			
		15週	期末試験				
16週		答案返却、解説、授業アンケート					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語・日本文学			
科目基礎情報								
科目番号	0057		科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2				
開設期	後期		週時間数	2				
教科書/教材	プリントを配布する							
担当教員	近藤 周吾							
到達目標								
学習教育目標D1 JABEE基準1 (1) d, e, f 独創とは何か? 模倣との違いは? この講義では、主として日本近代文学を題材としながら、広く文学および文化理解の基礎を構築する。自国の文化を深く理解すると同時に、異文化理解の助けとする。(d)最先端の文化理論を参照することで、先行する技術や情報を再編しながら独創的な成果を産み出すためのノウハウ・ノウハウを学ぶ。(e)口頭発表の機会を設け、プレゼンテーションの技能を習得する。平時のミニ・レポートや最終時のレポートにより、論理的な記述力も身につける。(f)								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	先行技術・情報を再編する原理を深く理解でき、活用できる。		先行技術・情報を再編する原理が理解できる。		先行技術・情報を再編する原理が理解できない。			
評価項目2	自ら調査した結果を効果的な方法で発表できる。		自ら調査した結果を発表できる。		自ら調査した結果を発表できない。			
評価項目3	日本の文学や文化について深く理解し、外国人と意見交換できるレベルに到達する。		日本の文学や文化について理解し、外国人と意見交換できる素地がある。		日本の文学や文化について理解できず、外国人と意見交換できるレベルにない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	学習教育目標D1 JABEE基準1 (1) d, e, f 独創とは何か? 模倣との違いは? この講義では、主として日本近代文学を題材としながら、広く文学および文化理解の基礎を構築する。自国の文化を深く理解すると同時に、異文化理解の助けとする。(d)最先端の文化理論を参照することで、先行する技術や情報を再編しながら独創的な成果を産み出すためのノウハウ・ノウハウを学ぶ。(e)口頭発表の機会を設け、プレゼンテーションの技能を習得する。平時のミニ・レポートや最終時のレポートにより、論理的な記述力も身につける。(f)							
授業の進め方・方法	講義形式で行うが、途中でプレゼンテーション実習を挿入。また、毎時ミニ・レポートを課す。							
注意点	「読む・書く・話す・聞く」のいわゆる4技能を重視するので、積極的な授業参加を心がけてほしい。							
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	オリエンテーション			授業内容の概要を理解する。		
		2週	文化理論概説1			間テキスト性理論の概略を理解する。		
		3週	文化理論概説2			間テキスト性理論の概略を理解する。		
		4週	文化理論概説3			間テキスト性理論の概略を理解する。		
		5週	近代文学研究1 ～太宰治「走れメロス」論1～			太宰治「走れメロス」の生成過程の調査を通じて「独創とは何か」「模倣とは何か」といった問いを考究する。		
		6週	近代文学研究1 ～太宰治「走れメロス」論2～			太宰治「走れメロス」の生成過程の調査を通じて「独創とは何か」「模倣とは何か」といった問いを考究する。		
		7週	近代文学研究1 ～太宰治「走れメロス」論3～			太宰治「走れメロス」の生成過程の調査を通じて「独創とは何か」「模倣とは何か」といった問いを考究する。		
	4thQ	8週	演習1			受講者自身の問題意識に発する口頭発表および質疑応答を行う。		
		9週	演習2			受講者自身の問題意識に発する口頭発表および質疑応答を行う。		
		10週	演習3			受講者自身の問題意識に発する口頭発表および質疑応答を行う。		
		11週	近代文学研究4 ～ピグマリオンのお話型学1～			古今東西の文学からピグマリオン・コンプレックスの事例を採集し、考察する。		
		12週	近代文学研究5 ～ピグマリオンのお話型学2～			谷崎潤一郎『痴人の愛』の分析を通じて、先行テキスト受容のあり方を考察する。		
		13週	近代文学研究6 ～ピグマリオンのお話型学3～			文学作品に限らず、映画や演劇まで視野に収めながら現代文化の可能性を探究する。		
		14週	レポートの書き方					
		15週	レポート作成					
16週	期末試験							
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	75	25	0	0	0	0	100	
基礎的能力	25	25	0	0	0	0	50	
専門的能力	25	0	0	0	0	0	25	
分野横断的能力	25	0	0	0	0	0	25	

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	地域社会研究		
科目基礎情報							
科目番号	0058		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	使用しない						
担当教員	横田 数弘						
到達目標							
産業論の基礎を学ぶとともに、北陸地域の実状を把握することに努める。特産物や地場産業や特色ある観光資源など、地域的特性を事実として、みずからの目や耳を通して、客観的に把握することをめざしていく。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	現代の産業に関する基礎知識を習得した上で、今後の日本経済の展望を自分なりに描くことができる。	現代の産業に関する基礎知識を習得している。	現代の産業に関する基礎知識を習得することができない。				
評価項目2	富山県や北陸地域の地域事情を把握した上で、今後の展望を自分なりに描くことができる。	富山県や北陸地域の地域事情を把握している。	富山県や北陸地域の地域事情を把握することができない。				
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	〔学習教育目標〕A1 (評価基準) a 産業論の基礎・基本を学ぶこと、近現代以降の北陸地域の態様変化を追究することをねらいとした科目である。経済活動は、まさにグローバル化してきている。その大きな動きのなかで、地域社会は如何に変化してきたのか、また、今後どのように変化していくのかを理論的・歴史的に検討してみたい。(a)						
授業の進め方・方法	教員単独で実施による講義形式を中心とするが、演習や地域巡検も実施する。授業時間中に学生発表も行う。地域巡検については、授業時間外に別途実施する予定である(半日)。また、地元紙(北日本・富山・北陸中日)、地元経済誌(北陸経済研究・北國TODAY)、全国週刊経済誌なども学生に分担してレビューしてもらう。授業の詳細(内容・計画)は受講生と相談の上、最終的に決定する(シラバスの変更も行う)。						
注意点	〔授業改善策〕 ①みずからの五感で具体的事実を把握・理解できるよう、授業時に配慮したい。実地調査(巡検)を授業時及び授業外(休日に設定する)に行い、座学で得た知識を「応用」したいと考えている。 ②「近未来の職業選択」に役立つよう、授業時に配慮するつもりである。近在の大学などでの文献調査だけでなく、地元企業や特定地域を対象とするフィールドワーク(実地調査)を実施するのはそのためである。こういった「頭と身体を同時に動かす」作業を通して、地域社会の姿を浮き彫りにしていきたい。						
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週	はじめに	・ガイダンス ・地域を産業の視点で学んでいく意義 ・地域を客観的・相対的に把握することの意味			
		2週	●実地調査(1)	射水市海老江地区・堀岡地区・下村地区の巡検			
		3週	産業論の基礎(1)	①産業構造・産業構成の基本理論 ②第1次産業(農林水産業)			
		4週	産業論の基礎(2)	③第2次産業(加工業) ④第3次産業(サービス業)			
		5週	●実地調査(2)	射水市新湊中心市街地の巡検			
		6週	北陸の地域特性(1)	・北陸地域を地理的歴史的に概観(自然地理的特性・人文的特徴) ・視点としての環日本海			
		7週	北陸の地域特性(2)	・地域間交流と北前船 ・能登地域との比較			
		8週	●実地調査(3)	南砺地域市街地(福光・城端・福野・井波など)の巡検			
	2ndQ	9週	地域産業論(1)	富山県地域における産業の特色(歴史的把握) ・売薬と産業の系譜 ・「創業」の伝統(日本資本主義の発展に寄与した富山県人)			
		10週	地域産業論(2)	特産物			
		11週	●実地調査(4)	港湾地区(伏木富山港岩瀬地区など)の巡検			
		12週	地域産業論(3)	地場産業			
		13週	地域産業論(4)	観光資源			
		14週	●実地調査(5)	新川地域の巡検(新幹線建設・観光地など)			
		15週	期末試験	実施しない			
		16週	おわりに	・受講生による発表(地元地域の企業研究など) ・成績評価・確認			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	0	30	40	0	100

基礎的能力	0	10	0	10	20	0	40
專門的能力	0	10	0	10	10	0	30
分野横断的能力	0	10	0	10	10	0	30

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	健康科学
科目基礎情報					
科目番号	0059		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材					
担当教員	大橋 千里				
到達目標					
(1)身体の生理学的知見を理解することができる。 (2)自らの身体活動量のデータから、生涯にわたる健康づくりについて主体的に捉えることができる。 (3)自らのライフスタイルにあった運動プログラムを科学的に作成し、実践するための態度を育成することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	現代の社会的背景から、日本国民が抱える健康問題について深く理解することができる。	現代の社会的背景から、日本国民が抱える健康問題について理解することができる。	現代の社会的背景から、日本国民が抱える健康問題についての理解が十分ではない。		
評価項目2	自らの健康度と身体活動量のデータから、生涯にわたる健康づくりについて主体的に捉えることができる。	自らの健康度と身体活動量のデータから、生涯にわたる健康づくりの必要性を理解している。	自らの健康度と身体活動量のデータから、生涯にわたる健康づくりの必要性を十分に理解していない。		
評価項目3	ライフスタイルに合った運動プログラムを身体活動ガイドラインに沿って作成し、実践するための態度が身についている。	ライフスタイルに合った運動プログラムを身体活動ガイドラインに沿って作成することができる。	ライフスタイルに合った運動プログラムを身体活動ガイドラインに沿って作成することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	(1)目標 運動が健康・体力に及ぼす生理的影響を学び、健康づくりを行うための基礎理論を習得する。さらに、自らに適した運動プログラムを作成し、実践する態度を身につける。これらを通して、健康的な生活を営むビジネスパーソンの育成を図る。 (2)概要 現代の病気の主役となっている生活習慣病は、運動・栄養・休養・ストレス等、日常生活の送り方が大きく影響している。運動は、体力を向上し、健康を増進させることから、運動・健康に関する知識を教養として学習する。				
授業の進め方・方法	3回の実験・実習に加え、歩数計を用いた2週間の身体活動量の測定や脚力測定を実施する。による授業15回のうち3回は実験・実習を実施する。また、授業の最後には1人10分程度のプレゼンテーションを実施する。				
注意点	実験や測定を実施する場合は、運動ができる服装で授業に参加すること。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	シラバスの説明	
		2週	簡易スタミナテストの測定、評価	簡易な方法を用いて自らの持続的能力を測定、評価する。	
		3週	健康に関する概念 (1)	現代の社会的背景を踏まえて健康問題について考える。	
		4週	健康に関する概念 (2)	生理学的知見から健康について捉える。	
		5週	運動と体力	運動が体力に及ぼす影響、実践的なトレーニング方法について学ぶ。	
		6週	運動と生活習慣病	運動不足と生活習慣病との関連について理解する。	
		7週	運動療法とその効果	生活習慣病改善のための運動療法の方法、効果について学ぶ。	
		8週	日常生活身体活動量	自らの日常生活身体活動量を予測した上で、IT機器を用いて測定を開始する。	
	4thQ	9週	健康的な運動の実践	運動種目、強度、時間の目標設定を行い、運動を実施する。	
		10週	日常身体活動量の評価	測定した身体活動量のデータから、自らの日常生活での身体活動を評価する。	
		11週	身体活動と健康	「健康づくりのための身体活動指針2013」の理論、実践方法について理解を深める。2回目の身体活動量の測定を開始する。	
		12週	健康的な運動の実践	運動種目、強度、時間の目標設定を再度行い、運動を実施する。	
		13週	日常身体活動量の再評価	前回の身体活動量のデータと今回のデータを比較検討する。	
		14週	プレゼンテーション作成	自らのライフスタイルに合った運動プログラムを作成し、それに関するプレゼンを作成する。	
		15週	プレゼンテーション	1人10分程度のプレゼンテーションを行う。	
		16週	プレゼンテーション 授業評価アンケートの実施	Powerpointを使って1人10分程度のプレゼンテーションを行う。 授業評価アンケートの実施	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	75	0	0	0	25	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	75	0	0	0	25	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	産業特論		
科目基礎情報							
科目番号	0060		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	適宜レジュメを配付する						
担当教員	長谷川 博						
到達目標							
1.現代日本産業の背景について、十分に理解し、説明できる。 2.学習者や学習者自身のビジネスにとって、周りを取り巻く社会や環境を見る目を養い、それに対する対応を十分に行うことができる。 3.イノベーションや課題解決に対して、自身の思考を十分に深化させることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	現代日本産業の背景について、十分に理解し、説明できる。	現代日本産業の背景について理解し、説明できる。	現代日本産業の背景についての理解が不十分で、説明できない。				
評価項目2	学習者や学習者自身のビジネスにとって、周りを取り巻く社会や環境を見る目を養い、それに対する対応を十分に行うことができる。	学習者や学習者自身のビジネスにとって、周りを取り巻く社会や環境を見る目を養い、それに対する対応を行うことができる。	学習者や学習者自身のビジネスにとって、周りを取り巻く社会や環境への対応ができない。				
評価項目3	イノベーションや課題解決に対して、自身の思考を十分に深化させることができる。	イノベーションや課題解決に対して、自身の思考をすることができる。	イノベーションや課題解決に対して、自身の思考をすることができない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	受講者が培ってきた専門性は多様だが、将来、技術者として、また現場の管理責任者として、あるいは企業全体の経営者としてマネジメントに携わり、産業の発展を担うことになる。本講義ではそれに必要な社会科学的知識、すなわち産業や企業の現状と課題、その背景となる社会システムや経済動向をどう捉え、その底流に流れる考え方を学ぶことを通じて、ユーザーたる顧客やその背後にある社会や産業、そして企業を見る目を養えるように、自らの技術と社会の関わり合いの方向を探るための基礎的な知識を修得するものである。各項目の理解には、提示した題材についてのディスカッションなどを通して、思考を深化させるとともに、より具体的な課題解決に向けた実践的能力を養う。						
授業の進め方・方法	授業内での報告と討議における参加状況、アウトプットとしてのディスカッション、提出レポート、にもとづいて総合的に評価する。						
注意点	概要に掲げた通り、受講生が将来、エンジニアあるいはまたは職責が拡大し経営管理に携わる立場になっても、大局的な視点を持てる素養としての社会科学的な知識と考え方を修得することを目標とする。JABEEの評価基準を満たすには、60点以上必要。						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	ガイダンス 大学生の教養	大学生の基礎教養とは何かについて理解し、説明できる。			
		2週	社会科学へのアプローチ	技術者として、またはビジネス人としての社会科学とは何かについて理解し、説明できる。			
		3週	現代日本産業の背景	日本人の勤労観について理解し、説明できる。			
		4週	現代日本産業の背景	日本的資本主義の思想について理解し、説明できる。			
		5週	現代日本産業の背景	長期信用社会としての歴史について理解し、説明できる。			
		6週	現代日本産業の背景	知識と技術の伝承について理解し、説明できる。			
		7週	現代日本産業の背景	日本企業にとっての企業価値について理解し、説明できる。			
	2ndQ	8週	現代日本産業の背景	信頼と共生について理解し、説明できる。			
		9週	現代日本産業の背景	感性と美意識について理解し、説明できる。			
		10週	産業を取り巻く環境への理解	生産経済社会の背景について理解し、説明できる。			
		11週	産業を取り巻く環境への理解	信用社会の背景について理解し、説明できる。			
		12週	産業に携わる視点	産業構造の変化、ソフト化の傾向、市場のメカニズムについて理解し、説明できる。			
		13週	産業に携わる視点	産業としての文化、文化が第二次産業に与える影響、文化産業の生産性について理解し、説明できる。			
		14週	産業に携わる視点	イノベーションの創出と、普及理論について説明できる。			
		15週	期末試験	ディスカッション、既習内容にもとづくレポート提出により評価			
16週	期末試験の解答	試験返却					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	0	50	100
基礎的能力	0	20	0	0	0	20	40
専門的能力	0	10	0	0	0	10	20
分野横断的能力	0	20	0	0	0	20	40

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	環日本海文化論		
科目基礎情報							
科目番号	0061		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	高階秀爾『西洋美術史』、中澤敦夫・宮崎衣澄『暮らしの中のロシア・アイコン』						
担当教員	宮崎 衣澄						
到達目標							
西洋美術史におけるアイコン、ロシア文化におけるアイコンについて学習することにより、ロシア宗教・文化事情に関する理解を深める。また、日本への正教会伝道について学び、ロシアと日本の文化交流史に関する理解を深める。 J A B E Eの評価基準を満たすには、60点以上必要である。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	西洋美術史の流れとアイコンについて理解できている		西洋美術史の流れとアイコンについて、おおそ理解できている		西洋美術史の流れとアイコンについて、理解できていない		
評価項目2	ロシア文化におけるアイコンについて理解できている		ロシア文化におけるアイコンについて大よそ理解できている		ロシア文化におけるアイコンについて理解できていない		
評価項目3	明治期の日露交流史について理解できている		明治期の日露交流史について大よそ理解できている		明治期の日露交流史について理解できていない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	環日本海地域のうち、特にロシアに注目し、ロシアの宗教とその表象であるアイコンに焦点をあてる。アイコンを美術史の枠組みで捉えるだけでなく、ロシアの歴史・文化面から分析することにより、ロシアの宗教・文化事情に対する理解を深めることを目的とする。 ロシア正教は明治期より日本で宣教活動を行っていることを踏まえ、日本における正教会についても触れ、日露文化交流史について学ぶ。						
授業の進め方・方法	講義および発表						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	イントロダクション 美術史におけるアイコン		美術史におけるアイコンの歴史的発展について学習する		
		2週	美術史概論①		西洋美術史の流れを理解する		
		3週	美術史概論②		西洋美術史の流れを理解する		
		4週	美術史概論③		西洋美術史の流れを理解する		
		5週	美術史概論④		西洋美術史の流れを理解する		
		6週	美術史概論⑤		西洋美術史の流れを理解する		
		7週	美術館実習事前学習		美術館実習事前学習。美術館所蔵作品について学習する。		
		8週	美術館実習事前学習		富山美術館にて実地研修を行い、作品についての理解を深める		
	4thQ	9週	実習のまとめと報告会		美術館実習で学習したことをまとめ、発表会の準備を行う		
		10週	ロシアとアイコン①		ロシア史における宗教・アイコンの役割と歴史について概観する		
		11週	ロシアとアイコン②		ロシア史における宗教・アイコンの役割と歴史について概観する		
		12週	日本の正教会		明治期にロシアから日本にもたらされた日本の正教会とその発展について学ぶ		
		13週	美術館実習事前学習		西田美術館において実地研修を行い、作品についての理解を深める		
		14週	実習のまとめと報告準備		美術館実習で学習したことをまとめ、発表会の準備を行う学習したことをまとめる		
		15週	報告会		美術館実習をうけて、ロシア・アイコンの作品をとりあげて発表を行う		
		16週	期末試験		学習内容が理解できているか確認する		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	60	0	0	0	40	100
基礎的能力	0	20	0	0	0	20	40
専門的能力	0	20	0	0	0	10	30
分野横断的能力	0	20	0	0	0	10	30

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	技術者倫理・企業倫理
科目基礎情報					
科目番号	0062		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	『技術者の倫理入門 第四版』 杉本泰治・高橋重厚著 丸善(2005年)				
担当教員	横田 数弘, 塚田 草, 松原 義弘				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・技術者倫理・企業倫理に関する基礎知識及び技術者として必要な行動規範を獲得することができる。 ・技術者倫理・企業倫理の理念や背景を説明することができる。 ・科学技術に関する種々の事例を専門技術者あるいは企業人として理解し、複数の解決策を提示することができる。 					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	技術者倫理・企業倫理に関する基礎知識及び技術者として必要な行動規範を獲得し、他者と十分に討論できる。	技術者倫理・企業倫理に関する基礎知識及び技術者として必要な行動規範を獲得することができる。	技術者倫理・企業倫理に関する基礎知識及び技術者として必要な行動規範を獲得することができない。		
評価項目2	技術者倫理・企業倫理の理念や背景を説明することができ、自身の意見をもっている。	技術者倫理・企業倫理の理念や背景を説明することができる。	技術者倫理・企業倫理の理念や背景を説明することができない。		
評価項目3	科学技術に関する種々の事例を専門技術者あるいは企業人として理解し、複数の解決策を提示することができる。	科学技術に関する種々の事例を専門技術者あるいは企業人として理解できる。	科学技術に関する種々の事例を理解しようとしていない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	重大事故や企業不祥事が相次いでいる昨今、技術者や企業経営者は生命や環境に影響する力を行使する機会と職業的権利を持つことから、その倫理観が重要視されている。本科目では、技術者に倫理が必要になった理由や企業倫理が求められる背景について具体的な事例を題材に討論し、倫理的な行動を実践し、人と自然とが共生できる科学技術の発展に寄与するための基礎知識を習得する。また、知的所有権についても言及する。				
授業の進め方・方法	複数教員によるオムニバス方式				
注意点	授業で取り扱う具体的な事例について、各自が社会や環境に与える影響を考慮し経済的・倫理的な視点から考え、意見を述べる事が重要である。 授業中の報告と質疑応答(30点)、レポート(30点)、事例発表(40点)で評価する。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 技術者倫理・企業倫理とは	技術者倫理・企業倫理の射程と背景を説明できる。	
		2週	・モラルへのとびら ・技術者・企業人と倫理	モラルと倫理、法と倫理の関係、なぜ技術者倫理・企業倫理かについて説明し、討論できる。	
		3週	・組織の中の一人の人間 ・モラル上の人間関係	個人と法人、倫理が作用する限界、技術者・企業人のコミュニティ、業務上の人間関係について説明し、討論できる。	
		4週	・技術者・企業人のアイデンティティ ・技術者の資格	科学技術・企業経営を担う人々、技術者・企業人の条件、技術者資格、技術者教育との連携について説明し、討論できる。	
		5週	・倫理実行の手法 ・注意義務	対話の成立、モラル問題のタイプ、注意義務と過失、職務と注意義務、品質管理、事故責任と法について説明し、討論できる。	
		6週	9 法的責任とモラル責任 10 正直性・真実性・信頼性	法的責任の全体像、法とモラルの境界域の責任、モラルの資質、企業コミュニティの体質・風土について説明し、討論できる。	
		7週	11 説明責任 12 警笛鳴らし	説明責任と信頼関係、立証責任、情報開示、通報の多様性、公益優先の場合について説明し、討論できる。	
		8週	13 環境と技術者 14 技術者の財産的権利	環境倫理の枠組み、持続可能な発展、企業における環境倫理、企業財産の持ち出し、特許権収入、企業財産の持ち出しについて説明し、討論できる。	
	4thQ	9週	知財セミナー	弁理士を招聘し、特許に関するセミナーを実施する。	
		10週	事例研究(1)	各班が技術者倫理・企業倫理に関する事例を調査し、問題点等を考察し討議する。	
		11週	事例研究(2)	各班が技術者倫理・企業倫理に関する事例を調査し、問題点等を考察し討議する。	
		12週	事例研究発表(1)	技術者倫理・企業倫理に関する事例を各自パワーポイントで発表し、全体で討論し、まとめを行う。	
		13週	事例研究発表(2)	技術者倫理・企業倫理に関する事例を各自パワーポイントで発表し、全体で討論し、まとめを行う。	
		14週	事例研究発表(3)	技術者倫理・企業倫理に関する事例を各自パワーポイントで発表し、全体で討論し、まとめを行う。	
		15週	事例研究発表(4)	技術者倫理・企業倫理に関する事例を各自パワーポイントで発表し、全体で討論し、まとめを行う。	
		16週	授業評価アンケート		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	討論	レポート	事例研究発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	30	40	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	20	20	20	0	0	0	60
分野横断的能力	10	10	20	0	0	0	40

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国際関係論		
科目基礎情報							
科目番号	0063		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	随時指示する教材						
担当教員	海老原 毅						
到達目標							
1. 国際関係論の基本的な概念, 思想と分析枠組みについて理解できる。 2. 近代から現代に至るまでの国際関係の主な秩序について理解できる。 3. 環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係を日本の二国間関係から分析できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	国際関係論の基本的な概念, 思想と分析枠組みについて十分に理解できる。		国際関係論の基本的な概念, 思想と分析枠組みについて理解できる。		国際関係論の基本的な概念, 思想と分析枠組みについて理解できない。		
評価項目2	近代から現代に至るまでの国際関係の主な秩序について十分に理解できる。		近代から現代に至るまでの国際関係の主な秩序について理解できる。		近代から現代に至るまでの国際関係の主な秩序について理解できない。		
評価項目3	環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係を日本の二国間関係から十分に分析できる。		環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係を日本の二国間関係から分析できる。		環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係を日本の二国間関係から分析できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目では, 多様な主体による行動から形成される国際社会の実情を, 国際関係論の概念・枠組みを用いて理解する視座と方法を養う。						
授業の進め方・方法	前半では, 国際関係の分析枠組みとして基本概念と理論について教授し, また近現代の主な世界秩序とその背景を第一次世界大戦から冷戦まで教授して, 冷戦後の国際関係の特徴に対する理解を促す。後半では, グローバル化の進展とその趨勢下における国家のパワーの分析枠組みを教授した後, その分析枠組みを用いて, 環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係の現状分析として, 日本と主要国との各二国間関係について発表と討論を行う。						
注意点							
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス		シラバスを通して, 本科目の概要を理解する。		
		2週	国際関係論の主題		国際関係論の中心課題について説明できる。		
		3週	国際社会の特徴, 国際関係の主要なアクター		国際関係論の主要理論のうち, リアリストの議論と主な論者について理解できる。		
		4週	国際関係論の理論 (1)		国際関係論の主要理論のうち, リアリストの議論と主な論者について理解できる。		
		5週	国際関係論の理論 (2)		国際関係論の主要理論のうち, リベラリストの議論と主な論者について理解できる。		
		6週	近現代の国際関係 (1)		近代国際関係の成立から第一次世界大戦前までの経緯を理解できる。		
		7週	近現代の国際関係 (2)		第一次世界大戦から第二次世界大戦前までの経緯を説明できる。		
	8週	近現代の国際関係 (3)		第二次世界大戦から冷戦期までの経緯を理解できる。			
	9週	近現代の国際関係 (4)		冷戦後の国際関係における変容について関する文献を読み, 討論できる。			
	4thQ	10週	グローバル化の進展と国家 (1)		グローバル化の概念を明確にし, グローバル社会における国家の作用と影響について理解できる。		
		11週	グローバル化の進展と国家 (2)		グローバル化が進展する国際社会の中で国家のパワーに関連する文献を読み, 討論できる。		
		12週	環日本海・東アジア地域の国際関係の現状分析 (1)		環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係について, 情報を収集し, 現状分析できる。		
		13週	環日本海・東アジア地域の国際関係の現状分析 (2)		環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係について, 現状分析を発表し, 討論できる。		
		14週	環日本海・東アジア地域の国際関係の現状分析 (3)		環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係について, 現状分析を発表し, 討論できる。		
		15週	環日本海・東アジア地域の国際関係の現状分析 (4)		環日本海地域を中心とする東アジア地域の国際関係について, 現状分析を発表し, 討論できる。		
16週		レポート返却, 授業アンケート					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	20	0	0	0	80	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	20	0	0	0	80	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	パラメータ設計		
科目基礎情報							
科目番号	0065		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	初学者のための品質工学 コロナ社 矢野耕也編著 2500円 ISBN978-4-339-02475-3						
担当教員	水谷 淳之介						
到達目標							
2段階設計の意義、基本機能について理解する。 品質工学の概念でシステム評価ができるようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1. オフラインの品質工学のなかで中心的な手法であるパラメータ設計の概要について解説する。 2. パラメータ設計の大きな特徴である2段階設計法について、具体的な計算演習を通してその考え方を理解することを目的とする。 3. パラメータ設計の概念を学ぶことにより、適切にシステムの基本機能を分析し評価できる技術者としての素養を養う。						
授業の進め方・方法	教員単独による講義及び演習						
注意点	教科書に掲載されている例題や演習問題を中心に演習する。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバスの説明、品質工学の背景			シラバスの説明 品質工学の考え方、ロバスト設計、2段階設計	
		2週	パラメータ設計の考え方			SN比の意味と計算方法	
		3週	パラメータ設計の考え方			SN比および感度の意味と計算方法	
		4週	パラメータ設計に必要な知識			制御因子と直交表	
		5週	パラメータ設計に必要な知識			誤差因子と調合誤差因子	
		6週	演習1			望目特性による製品開発演習	
		7週	パラメータ設計に必要な知識			動特性の考え方とSN比の計算方法	
		8週	パラメータ設計に必要な知識			動特性による製品開発方法	
	2ndQ	9週	演習2			動特性による製品開発演習	
		10週	動特性のパラメータ設計の手順			補助表の作成、要因効果図の作成	
		11週	動特性のパラメータ設計の手順			利得の推定と確認実験	
		12週	演習3			動特性のパラメータ設計演習	
		13週	演習4			動特性のパラメータ設計演習	
		14週	機能性評価			機能性評価とは。機能性評価の進め方	
		15週	期末試験			パラメータ設計に関する考え方、計算演習の内容について問う。	
		16週	成績確認、授業アンケート			試験解答、成績確認、授業アンケート	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	生産開発システム		
科目基礎情報							
科目番号	0066		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	基礎生産加工学 (朝倉書店)						
担当教員	山本 桂一郎						
到達目標							
生産開発システムを理解し、演習問題を解くことができる。 生産システムを理解し、生産技術がどのような製品に適用されているかを発表することができる。 JABEEの評価基準に達するには、60点以上が必要である。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
生産開発システムを理解し、演習問題を解くことができる。	生産開発システムを理解し、演習問題を解くことができる。		生産開発システムを理解出来る。		生産開発システムを理解し、演習問題を解くことが出来ない。		
生産システムを理解し、生産技術がどのような製品に適用されているかを発表することができる。	生産システムを理解し、生産技術がどのような製品に適用されているかを論理的に発表することができる。		生産システムを理解し、生産技術がどのような製品に適用されているかを発表することができる。		生産システムを理解し、生産技術がどのような製品に適用されているかを発表することが出来ない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	エンジニアとして必要な生産開発システムの基礎について述べる。まず、材料加工技術の歴史と産業革命以後の生産形態、加工能率・工程管理を概説する。本講義時間にて生産全般を教授するためには、一方的な講義形式では十分な時間が無いため、学生が能動的に取り組めるよう、各自が異なるモノの生産方法をまとめ、それを発表することによって、受講者全体で共有する手法をとる。						
授業の進め方・方法	教員単独による講義+演習						
注意点	【授業評価アンケート改善点】 専攻、学年をまたいで行う講義のため、専門用語についてはその都度確認を行う。動画や写真を出来るだけ多く提示する。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	生産開発システムを学ぶ理由		シラバスによる授業の説明 品質の高い製品とは、その技術と設備について		
		2週	生産加工の概要		身近な製品の作り方と生産方法の選択について		
		3週	代表的な生産システムの概説		代表的な生産システムについて説明する。		
		4週	ものづくりに必要な考え方 (開発, 設計, 生産)		開発から出荷までの流れを説明する。		
		5週	コストと品質		ものづくりのコストと品質の考え方について説明する。		
		6週	各自のテーマ設定と調査, 5分スピーチ		個別に異なるテーマを設定する。振り返り5分スピーチ。		
		7週	各自のテーマ設定と調査, 5分スピーチ		個別テーマ分析。振り返り5分スピーチ。		
		8週	各自のテーマ設定と調査, 5分スピーチ		個別テーマ分析。振り返り5分スピーチ。		
	4thQ	9週	グループワーク, 意見交換による整理		グループによるディスカッション。		
		10週	グループワーク, 意見交換による整理		グループによるディスカッション。		
		11週	各自のテーマのブラッシュアップ		個別テーマ分析		
		12週	各自のテーマのブラッシュアップ		個別テーマ分析		
		13週	各自のテーマのブラッシュアップ		個別テーマ分析		
		14週	成果発表による知識の共有		個別成果発表によりクラス内で共有する。		
		15週	期末試験		講義を通しての総合的な問題		
		16週	成果発表による知識の共有		個別成果発表によりクラス内で共有する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	レポート	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100
基礎的能力	10	0	0	0	0	0	10
専門的能力	30	10	10	0	0	0	50
分野横断的能力	20	10	10	0	0	0	40

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	港湾実務
科目基礎情報					
科目番号	0067		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	浅妻裕, 福田友子, 外川健一, 岡本勝規『自動車リユースとグローバル市場—中古車・中古部品の国際流通』,成山堂書店,2017。その他、適時プリント等を配布する。				
担当教員	岡本 勝規				
到達目標					
①貿易条件の種類及び輸出入に向けた港湾運送手続き、通関手続き、代金決済手続きについての基礎的知識を習得する。 ②倉庫の運用について基礎的知識を習得する。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		貿易条件の種類及び輸出入に向けた港湾運送手続き、通関手続き、代金決済手続きについての専門用語を個々に説明できると共に、それらの用語を用いて各手続きの流れと目的、利点・欠点を説明できる。	貿易条件の種類及び輸出入に向けた港湾運送手続き、通関手続き、代金決済手続きについての専門用語を個々に説明できる。	貿易条件の種類及び輸出入に向けた港湾運送手続き、通関手続き、代金決済手続きについての専門用語を個々に説明できない。	
評価項目2		倉庫の運用についての専門用語を個々に説明できると共に、それらの用語を用いて各手続きの流れと目的、利点・欠点を説明できる。	倉庫の運用についての専門用語を個々に説明できる。	倉庫の運用についての専門用語を個々に説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	学習目標(授業の狙い) 港の機能と役割について学ぶ。その後、事例を元に荷主が一般港湾運送業者・通関業者に委託して行う貿易実務の内容として、船積み書類及び輸出入申告の手続と、それらと商取引代金決済手続きの関係について学ぶ。最後に、倉庫業の役割と現在の動向について学ぶ。				
授業の進め方・方法	教員2名のオムニバスによる講義を実施する。				
注意点	教科書の指定された部分に関してはあらかじめ目を通しておくこと。 各学生の評価は、中間試験より前の講義については、レポートに対して付ける点数と中間試験の結果の点数を、それぞれ50%として、中間試験より前の講義に関する評定点数とする。中間試験より後の講義については、期末試験の結果の点数を100%として、中間試験より後の講義に関する評定点数とする。最後に両評定点数を合計して2で割り、本科目についての評価を決定する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業計画、到達目標、評価方法が理解できる。	
		2週	港湾の機能と役割	港湾の概念が理解できる。	
		3週	港湾の機能と役割	港湾管理の概要が理解できる。	
		4週	港湾の機能と役割	港湾管理と経済の関係が理解できる。	
		5週	港湾の機能と役割	世界の主要港湾を具体例として、港湾の機能と役割についてケース・スタディを実行する。	
		6週	港湾の機能と役割	港湾の機能と役割に関する事例を各自パワーポイントで発表・討論し、まとめを行った上で、港湾の機能と役割を具体的に理解する。	
		7週	中間試験	講義開始以降中間試験実施より前に講義した内容について理解度を測るために中間試験を行う。	
		8週	輸出に向けた輸送手続きの制度	輸出制度の変化を概観し、輸出貿易管理令と関税法基本通達の役割を理解する。また、輸送段階と輸送手段の概要を把握する。	
	2ndQ	9週	輸出に向けた輸送手続きの制度と荷物の流れ	インコタームズに定められた、主たる貿易定型条件の内容を理解する。	
		10週	輸出に向けた輸送手続きと荷物の流れ	B/L発行に至るまでの、船積みのための手続きを把握し、各書類の役割を理解する。	
		11週	輸出に向けた通関手続きと荷物の流れ	E/P発行に至るまでの、通関のための手続きを把握し、各書類の役割を理解する。また、S/Aの内容と目的を理解する。	
		12週	輸出に向けた代金決済手続きと荷物の流れ	L/C付き荷為替手形決済や、T/Tなど、商品代金回収のための手続きを把握し、船積み手続き・通関手続きとの関連、決済方法の利点・欠点を理解する。	
		13週	倉庫業経営の特質	倉庫の種類とその収益構造、立地戦略を理解する。	
		14週	倉庫業の業際化と系列化	規制緩和以降、倉庫業界で進んだ業際化と系列化について、その背景となったビジネス環境の変化を把握し、経営戦略上の意義を理解する。	
		15週	期末試験	中間試験より後、期末試験より前までに講義した内容について理解度を測るために期末試験を行う。	
		16週	答案返却、解説	本科目の成績について確認する。	
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	75	25	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	75	25	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	港湾物流		
科目基礎情報							
科目番号	0068		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	なし。適時プリント等を配布する。						
担当教員	岡本 勝規						
到達目標							
港湾物流とその施設が持つ経済的機能および港湾物流の業態を把握し、港湾物流における課題を理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	港湾物流とその施設が持つ経済的機能および港湾物流の業態を、専門用語を用いて説明できると共に、港湾物流における今後の課題について見解を説明できる。		港湾物流とその施設が持つ経済的機能および港湾物流の業態を、専門用語を用いて説明できる。		港湾物流とその施設が持つ経済的機能および港湾物流の業態を、専門用語を用いて説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	学習目標(授業の狙い) 港湾物流と地域経済との関連から、港湾物流が社会において果たしている役割を把握する。その上で、特に港湾において行われる物流業務の内容と変容を学ぶ。						
授業の進め方・方法	教員2名のオムニバスによる講義を実施する。						
注意点	事前に配布されたプリントについてはあらかじめ目を通しておくこと。 各学生の評価は、中間試験の結果の点数と期末試験の結果の点数を合計して2で割り、本科目についての評価として決定する。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業計画、到達目標、評価方法が理解できる。			
		2週	港湾物流の動向	港湾物流をめぐるビジネス環境の現況を把握する。			
		3週	地域経済と港湾物流	港湾物流と地域経済との関係性を理解する。			
		4週	港湾物流の構造	港湾物流と地域経済との関係性を踏まえた上で、荷主の港湾選択の動向を把握し、港湾のサービス圏域をめぐる戦略を理解する。			
		5週	港湾物流の実際①	荷主の港湾利用動向の実際を把握するため、伏木富山港周辺で中古車貿易を行う荷主に対するフィールドワークを行うにあたり、同荷主の貿易活動について資料から把握する。			
		6週	港湾物流の実際②	伏木富山港周辺で中古車貿易を行う荷主に対するフィールドワークを行い、荷主の港湾利用動向の実際を把握する。			
		7週	港湾物流の実際③	伏木富山港周辺で中古車貿易を行う荷主に対するフィールドワークを行い、荷主の港湾利用動向の実際を把握する。			
		8週	中間試験	講義開始以降中間試験実施より前に講義した内容について理解度を測るために中間試験を行う。			
	2ndQ	9週	港湾の役割①	日本の港湾の国際競争力について理解する。			
		10週	港湾の役割②	自由貿易地域と輸入促進地域の仕組みと役割について理解する。			
		11週	情報化とアウトソーシング港	港湾物流のEDI化の目的と背景、3PLの役割とその発生の背景を理解する。			
		12週	物流拠点としての港湾	港湾における物流拠点性の進展と、現在求められる機能と役割について理解する。			
		13週	国際複合一貫運送と港湾物流業	国際複合一貫運送の仕組みを把握した上で、港湾物流業との関わり、フォワーダーの位置づけについて理解する。			
		14週	港湾運送の仕組みと特性	港湾運送における運輸機能の体系とその事業構成を理解する。			
		15週	期末試験	中間試験より後、期末試験より前までに講義した内容について理解度を測るために期末試験を行う。			
		16週	答案返却、解説	本科目の成績について確認する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	地球科学概論		
科目基礎情報							
科目番号	0069		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	配布資料						
担当教員	福留 研一						
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> 地球流体力学に関する基礎的な式を理解する。 地球流体力学の基礎式により簡単な現象を表現できる。 上記の考察により地球流体の性質を理解する。 							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	地球流体の概念を理解し解説できる		地球流体の概念を理解できる		地球流体の概念を理解できない		
評価項目2	地球流体力学の基礎式を用いてより複雑な現象を表現できる		地球流体力学の基礎式を用いて簡単な現象を表現できる		地球流体力学の基礎式を用いて簡単な現象を表現できない		
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義では大気や海洋で起こる現象を、地球流体力学の基礎的な手法（現象の定式化など）により学び、船舶の運行や漁業、さらに日常生活に対する気候の影響についての基礎的理解を深めることを目的とする。						
授業の進め方・方法	講義およびレポート						
注意点	<p>これまで学習した、流体力学、物理（力学）、数学で学習した解析の基礎を理解しておくこと。特に、基礎的な微分・積分は覚えておくこと。この教科の内容が理解できない場合、簡単なことでもいいので、疑問を感じたら質問するように心がける。</p> <p>また、学生の理解度を検討しながら課題内容を決めたい。</p> <p>評価が60点に満たない者は追認試験願の提出により追認プログラムを受けることができる。追認プログラムの結果、単位の修得が認められた者にあたっては、その評価を60点とする。なお、追認プログラムは、不認定となった内容によって異なるので確認すること。</p> <p>授業計画は、学生の理解度に応じて変更する場合がある。</p>						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 海洋・気象		地球流体力学の考え方、海洋・気象の特性について理解する		
		2週	基礎方程式(1)		連続の式、運動方程式などの導出を理解する		
		3週	基礎方程式(2)		熱塩分輸送式などの導出を理解する		
		4週	基礎方程式(3)		乱流、運動方程式の近似、ロスビー数について理解する		
		5週	大気・海洋間における境界条件		太陽放射、熱バランス、塩分バランス、運動量バランスについて理解する		
		6週	地衡流(1)		地衡流バランス、スベルドラップの関係について理解する		
		7週	地衡流(2)		順圧流について理解する		
		8週	中間テスト		これまでのまとめ		
	4thQ	9週	惑星境界層(1)		境界層の基礎方程式、大気と海洋の境界層について理解する		
		10週	惑星境界層(2)		海底境界層、エクマン輸送について理解する		
		11週	順圧海洋循環(1)		エクマンバンピングについて理解する		
		12週	順圧海洋循環(2)		西岸境界流について理解する		
		13週	傾圧海洋循環(1)		圧力勾配、密度・水温・塩分の関係について理解する		
		14週	傾圧海洋循環(2)		水温・塩分場における地衡流速度、海洋渦、ロスビー波などのその他の現象について理解する		
		15週	レポート発表		各自が興味を持った地球流体の現象について調べ、調査結果を報告し、相互に評価する		
		16週	成績評価・確認 授業評価アンケート				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	30	0	0	40	100
基礎的能力	0	10	10	0	0	20	40
専門的能力	0	20	10	0	0	20	50
分野横断的能力	0	0	10	0	0	0	10

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国際ビジネス学特別研究 I		
科目基礎情報							
科目番号	0070		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 4			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	4			
教科書/教材							
担当教員	村山 雅子,塩見 浩介,宮重 徹也,萩原 信吾,清 剛治,那須野 育大						
到達目標							
1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得で論理的思考力と経営学的分析力を育成し、学会で評価されるレベルの研究ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	学会で評価されるレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができない		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得できる。						
授業の進め方・方法	各研究室において実施						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		1年目における論文作成の流れと注意点に関する説明が理解できる。		
		2週	研究		論文作成ができる。		
		3週	研究		論文作成ができる。		
		4週	研究		論文作成ができる。		
		5週	研究		論文作成ができる。		
		6週	研究		論文作成ができる。		
		7週	研究		論文作成ができる。		
		8週	研究		論文作成ができる。		
	2ndQ	9週	研究		論文作成ができる。		
		10週	研究		論文作成ができる。		
		11週	研究		論文作成ができる。		
		12週	研究		論文作成ができる。		
		13週	研究		論文作成ができる。		
		14週	研究		論文作成ができる。		
		15週	第3回特別研究発表会		研究報告ができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	特別研究発表	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国際ビジネス学特別研究Ⅱ		
科目基礎情報							
科目番号	0071		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 4			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	4			
教科書/教材							
担当教員	村山 雅子,塩見 浩介,宮重 徹也,萩原 信吾,清 剛治,那須野 育大						
到達目標							
1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得で論理的思考力と経営学的分析力を育成し、学会で評価されるレベルの研究ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	学会で評価されるレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができない		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得できる。						
授業の進め方・方法	各研究室において実施						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		1年後期における論文作成の流れと注意点に関する説明を理解できる。		
		2週	研究		論文作成ができる。		
		3週	研究		論文作成ができる。		
		4週	研究		論文作成ができる。		
		5週	研究		論文作成ができる。		
		6週	研究		論文作成ができる。		
		7週	研究		論文作成ができる。		
		8週	研究		論文作成ができる。		
	4thQ	9週	研究		論文作成ができる。		
		10週	研究		論文作成ができる。		
		11週	研究		論文作成ができる。		
		12週	研究		論文作成ができる。		
		13週	研究		論文作成ができる。		
		14週	研究		論文作成ができる。		
		15週	第4回特別研究発表会		研究報告ができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	特別研究発表	特別研究論文	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数理意思決定論		
科目基礎情報							
科目番号	0072		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	萩原 信吾						
到達目標							
1) 論理的な推論とは何かが説明できる。 2) 論理的な正しさについて説明できる。 3) 論理的正しさのある議論ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的な推論を記号を使用して説明できる。		論理的な推論とは何かが説明できる。		論理的な推論とは何かが説明できない。		
評価項目2	論理的な正しさを、計算により確かめることができる。		論理的な正しさについて説明できる。		論理的な正しさについて説明できない。		
評価項目3	議論において、論理的欠点や論理的な脆弱箇所を指摘できる。		論理的正しさのある議論ができる。		論理的正しさのある議論ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義では論理学を通して論理的思考について学ぶ。論理学は、論理的に正しい推論などを形式化したものである。これにより、正しいとは何か、また、ものの正しいとらえ方は何かを身につける。						
授業の進め方・方法	講義を中心とし、学習内容を確認しながら進める						
注意点	評価が60点に満たない者は、願い出により追認のための課題を受けることができる。追認課題の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を60点とする。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス	講義の概要について説明する。			
		2週	論理的思考 (1)	論理的な思考とは何か			
		3週	論理的思考 (2)	論理の要素とは			
		4週	論理的思考 (3)	論理構造を作るもの			
		5週	論理的思考 (4)	推論とは何かと、推論の種類			
		6週	論理的思考 (5)	論理的構造の形式化			
		7週	論理的思考 (6)	論理構造の意味と解釈			
		8週	論理的思考 (7)	形式的推論の手法 (1)			
	2ndQ	9週	論理的思考 (8)	形式的推論の手法 (2)			
		10週	存在と論理構造 (1)	存在のはかり方			
		11週	存在と論理構造 (2)	すべてと任意の意味の違い			
		12週	存在と論理構造 (3)	量化が示す論理構造			
		13週	否定と人の思考 (1)	人の思考と否定の関係			
		14週	否定と人の思考 (2)	人が考える論理的世界のとらえ方			
		15週	期末試験	学習内容の確認を行う。			
		16週	成績評価・確認	講義のまとめと成績の確認を行う。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	40	0	0	0	0	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	ビジネス会計論		
科目基礎情報							
科目番号	0074		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	塩見 浩介						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	応用情報処理論		
科目基礎情報							
科目番号	0075		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	萩原 信吾						
到達目標							
1) アルゴリズムの設計ができる。 2) データ構造について説明ができる。 3) VBAを用いてプログラムの作成ができる。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	無駄のないアルゴリズムを設計できる。		アルゴリズムの設計ができる。		アルゴリズムの設計ができる。		
評価項目2	データ構造を工夫してプログラムに反映することができる。		データ構造について説明ができる。		データ構造について説明ができる。		
評価項目3	自ら調べて自由にVBAのプログラムを組むことができる。		VBAを用いてプログラムの作成ができる。		VBAを用いてプログラムの作成ができる。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	現在EXCELはあらゆる業種の現場で用いられている表計算ソフトである。しかしながら、大半の現場ではその表計算ソフトのほとんどの機能が使用されず、人力で入力および計算がされている。そこでEXCELの自動処理に使用されるVBAを用い、VBAのプログラミングについて学ぶ。これにより実際の現場でVBAの自動処理を用いて、業務の効率化が可能となる。						
授業の進め方・方法	講義による説明と演習による形式で行う。						
注意点	評価が60点に満たない者は、願い出により追認のための課題を受けることができる。追認課題の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を60点とする。評価は課題で作成したものの評価とする。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス	プログラムについての基礎知識			
		2週	VBAの基礎	基礎的なアルゴリズムとそれとともなうデータ構造			
		3週	VBAにおける変数と型	データと型における基本概念			
		4週	VBAの条件分岐	VBAの構文規則などの言語基礎知識			
		5週	for文	VBAの構文規則などの言語基礎知識			
		6週	while文	VBAの構文規則などの言語基礎知識			
		7週	foreach文	VBAの構文規則などの言語基礎知識			
		8週	セル	セルの操作プロパティなど主要APIの説明			
	2ndQ	9週	ファイル	ローカルシステムに対するファイル操作			
		10週	課題作成				
		11週	課題作成				
		12週	課題作成				
		13週	課題作成				
		14週	課題作成				
		15週	課題作成				
		16週	課題作成				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	課題	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	0	70
専門的能力	30	0	0	0	0	0	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	経営システム科学論		
科目基礎情報							
科目番号	0077		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	村山 雅子						
到達目標							
経営科学における基礎科目となる統計学の基礎を理解する。 多変量解析の概要について学び、基礎的な解析手法を習得することを目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	経営科学における基礎科目となる統計学の基礎を理解し、演習問題を解くことができる。		経営科学における基礎科目となる統計学の基礎を理解し、演習問題を説明を聞きながら解くことができる。		経営科学における基礎科目となる統計学の基礎を理解し、演習問題を解くことができない。		
評価項目2	多変量解析の概要を理解し、分析手法を事例を挙げて説明できる。		多変量解析の概要を理解し、分析手法を事例を挙げてやや不十分ながらも説明できる。		多変量解析の概要を理解し、分析手法を事例を挙げて説明することができない。		
評価項目3	多変量解析の基礎的な分析手法を用いて簡単な演習問題を解くことができる。		多変量解析の基礎的な分析手法を用いて簡単な演習問題を説明に従って解くことができる。		多変量解析の基礎的な分析手法を用いて簡単な演習問題を解くことが出来ない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	経営科学における基礎科目となる統計学の基礎を学習する。 過去の実績を時系列分析する各種の需要予測手法、在庫管理、品質管理と信頼性の基礎概念について学ぶ。 多変量解析の基礎について理解する。						
授業の進め方・方法	講義と演習						
注意点	評価が60点に満たないものは、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者は、その評価を60点とする。評価方法および評価基準は本試験と同じとする。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション			シラバスの内容について説明する	
		2週	代表値			集団の特徴を代表値でとらえる	
		3週	分布と標準偏差			集団の特徴を分布でとらえる	
		4週	基準値と偏差値			集団の中における個々のデータの位置をとらえる	
		5週	個体間の距離 (1)			ユークリッド距離の概念について説明できる。	
		6週	個体間の距離 (2)			マハラノビスの汎距離の概念について説明できる。	
		7週	相関分析			相関分析により2変数間の関係を調べる	
		8週	多変量解析			多変量解析の概念について説明できる。	
	4thQ	9週	重回帰分析 (1)			重回帰分析の概念について説明できる。	
		10週	重回帰分析 (2)			変数クラスター分析について説明できる。	
		11週	判別分析 (1)			判別分析の概念について説明できる。	
		12週	判別分析 (2)			判別分析演習	
		13週	主成分分析 (1)			主成分分析の概念について説明できる。	
		14週	主成分分析 (2)			主成分分析演習	
		15週	期末試験			これまでに学んだ内容について試験を行う	
		16週	成績確認			期末試験の成績確認	
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	地域イノベーション論		
科目基礎情報							
科目番号	0078		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	資料を配布する。						
担当教員	清 剛治						
到達目標							
<p>①地域イノベーション・システムについて端的に説明できる。</p> <p>②地域社会構造についてシステム思想的に俯瞰できる（講義内で明確化）。</p> <p>③我々が社会生活を営む「経済地域」の視角から、国際化に対峙する日本人が意識すべき、グローバルーローカルの関連性を認識・理解できる。</p> <p>④世の中で起きている不確実な社会現象等について、自らの考えを述べる事ができる</p> <p>⑤他人の意見に対し、自らの意見を論じていくことができる。</p>							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	地域社会構造についてシステム思想的に正確に俯瞰できる。		地域社会構造についてシステム思想的に俯瞰できる。		地域社会構造についてシステム思想的に俯瞰できない。		
評価項目2	グローバルーローカルの関連性を正確に認識・理解できる。		グローバルーローカルの関連性を認識・理解できる。		グローバルーローカルの関連性を認識・理解できない。		
評価項目3	世の中で起きている不確実な社会現象等について、正確に自らの考えを述べる事ができる。		世の中で起きている不確実な社会現象等について、自らの考えを述べる事ができる。		世の中で起きている不確実な社会現象等について、自らの考えを述べる事ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	グローバル社会において、いかにしてローカルな競争優位を成すかを多面的に考えていくことを目的としている。それは、我々が社会生活を営む「経済地域」の視角から、国際化に対峙する日本人が意識すべき、グローバルーローカルの関連性を認識・理解することにもつながっているものである。						
授業の進め方・方法	本講義においては、事前に提示する課題を学生がこなし報告することで理解度を高める。この課題は翌週の講義とリンクしており、一種の反転教育的に、理解を深化させる構成で実施する予定である。また、現代社会の動向を抑えておくことが必要のため、新聞や経済雑誌などの情報に随時、触れておいてほしい。						
注意点	上述の課題に基づく学生側からの報告が講義の基盤となるので、必ず準備して臨むこと。その意味では極めてハードな講義となるのだが、身につく力量は深化される。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	地域イノベーション・システムとは	本講義の意義と全体概要			
		2週	導入講義：「成熟の経済」と「グローバル化」	日本の地域社会がおかれた現況を理解する。			
		3週	経済地域とグローバル・エコノミー	経済地域概念をグローバル経済の視角から理解する。			
		4週	グローバル経済圏と国際摩擦	グローバルな地域間競争と国際摩擦について理解する。			
		5週	不況脱出への経済政策	国民経済内部の地域に対する国家政策の重要性を理解する。			
		6週	成長・発展へのイノベーション創出	地域経済発展を成し遂げるイノベーション理論を理解する。			
		7週	地域産業クラスター	域の「競争力」を強化する「場」のメカニズムを理解する。			
		8週	競争優位な地域システム①：米のハイテク・コンプレックスを事例として	地域ネットワーク型産業システムを理解する。			
	4thQ	9週	競争優位な地域システム②：創業のダイナミクス	国を事例とし、地域における事業創造について理解する。			
		10週	技術連携の地域システム	新しい地域産業を生み出す産学官連携の仕組みと効用について理解する。			
		11週	域学連携教育の地域システム	サービスマーケティングと地域社会への効用について理解する。			
		12週	グローバル人材獲得競争	グローバルな人材流動が、地域に大きな影響を与えるという理解する。			
		13週	企業競争優位の源泉	地域の競争優位への参考となる企業行動の理論と実際を理解する。			
		14週	ニッポンは勝ち残れるか：激突 国際標準競争	グローバル社会における国家と地域の競争優位の獲得への現実を理解する。			
		15週	まとめ	全体を振り返り、理解の深化を図る。			
		16週	期末試験	最終レポート			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	80	0	0	0	0	80

専門的能力	0	20	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0